ディアジオ・インディア、売上高でペルノ・リカールを抜きインド最大の酒類企業に

インペリアル・ブルーの売却後、ペルノ・リカールの売上高が13.6%減少。ユナイテッド・スピリッツがFY26に27,816クロール・ルピーを記録した。

2026年11月22日（日）



ペルノ・リカール・インディアの売上高が、インペリアル・ブルー事業の売却を受け、2026年3月31日終了年度に大幅に減少したことから、ディアジオ・インディアが同社を抜き、売上高でインド最大の酒類企業となった。

インド企業登記局に提出された財務書類によると、ペルノ・リカール・インディアの営業収益はFY26に13.6%減少し、23,701.27クロール・ルピーとなった。その他の収入を含む総収入は12.8%減の24,122.03クロール・ルピーだった。

この減少により、上場子会社のユナイテッド・スピリッツを通じて事業を展開するディアジオ・インディアが首位に立った。ユナイテッド・スピリッツのFY26営業収益は27,816クロール・ルピーで、

前年から4.38%増加。連結総収入は28,294クロール・ルピーに伸びた。

この順位の変化は、世界の酒類大手が長期成長に向けて最重要市場の一つと位置づけるインドで、注目すべき変化となる。また、酒類企業にとって重要な競争市場であり、プレミアム酒類、ビールなどの飲料メーカーにとって存在感を増すインドでは、ポートフォリオの変更が市場順位を急速に変え得ることも示している。

ペルノ・リカールは近年、首位の座を維持していた。FY26の減少は主に、インペリアル・ブルーをティラクナガー・インダストリーズに売却したことによるもので、この取引でフランス企業の大衆市場向け商品での存在感は縮小した。ディアジオの首位浮上は、ユナイテッド・スピリッツが2021年、プレミアム商品に一段と注力する戦略の一環として、人気の低価格帯ウイスキーブランド群をインブリュー・ビバレッジズに売却してから数年後のことだ。

この数字は、インドの酒類業界で進む、より広範な勢力図の変化を浮き彫りにしている。多国籍企業がプレミアムやラグジュアリーなブランドを売り込む一方、国内企業も地歩を固めている。大手企業の中でも特に好調だったラディコ・カイタンは、連結総収入がFY25の17,098.5クロール・ルピーからFY26には約22.7%増の20,976.4クロール・ルピーとなった。これにより同社は、売上高でインド市場3位となった。

ラディコ・カイタンのポートフォリオには、Magic Moments vodka、8PM whisky、Rampur Indian Single Malt、Jaisalmer Indian Craft Gin、Royal Ranthambore whiskyが含まれる。同社の成長は、インドの消費者がより高価格帯の酒類に支出する意欲を高める中、海外企業とともに国内メーカーも恩恵を受けていることを示唆する。

ハイネケン傘下のビールメーカー、ユナイテッド・ブルワリーズも市場の主要企業としての地位を保ったが、業績は悪化した。同社の連結総収入はFY25の19,444.44クロール・ルピーから、FY26には約10%減の17,508.66クロール・ルピーとなった。

ディアジオ・インディアとペルノ・リカール・インディアの財務結果を合わせると、業績にばらつきがあった年度でも、市場の規模が大きいことが分かる。両社のFY26連結総収入は合計52,416.03クロール・ルピーで、前年度の55,275.6クロール・ルピーから5.17%減少した。

ペルノ・リカールは売上高が減少した一方、最終利益は大きく伸びた。継続事業からの利益は、前年の1,734.59クロール・ルピーから4,551.60クロール・ルピーに増加した。この伸びは主に、インペリアル・ブルーの売却による3,223.49クロール・ルピーの特別利益に支えられた。

特別損益項目を除いても、ペルノ・リカールは営業面で改善を記録した。特別損益項目控除前・税引前利益は、FY25の2,342.24クロール・ルピーからFY26には5.68%増の2,475.29クロール・ルピーとなった。総費用は14.51%減の21,646.74クロール・ルピーだった。

同社はブランドへの投資も拡大した。広告・販促費は前年の864.16クロール・ルピーから、FY26には12.44%増の971.69クロール・ルピーとなった。税金費用の合計は607.65クロール・ルピーから88.8%増加し、1,147.18クロール・ルピーに達した。

インドは引き続き、販売量でペルノ・リカール最大の市場であり、最重要成長市場の一つでもある。同社はAbsolut、Jameson、Chivas Regal、Ballantine’s、The Glenlivetなどの国際ブランドに加

え、インドではBlenders Pride、100 Pipers、Longitude 77、Xclamat!onを含むSeagramのポートフォリオを販売している。

報道によると、ペルノ・リカールはインド事業の新規株式公開（IPO）を視野に入れた準備作業も続けている。上場が実現すれば、市場規模の大きさと競争環境の急速な変化を背景に、投資家の強い関心を集める可能性が高い。

売上高での首位交代は、直接関係する2社を超えて影響を及ぼす可能性がある。酒類消費の大半をスピリッツが占め、プレミアム化が業界の中心的な戦略となっているインドでは、大衆市場向けの主要ブランドの売却が、市場シェア、価格決定力、業界全体の投資計画を変え得る。世界でも特に注目される飲料市場の一つで、世界企業と国内メーカーがウイスキー、ウォッカ、ジン、ビールのポートフォリオをどう位置づけるかにも影響する可能性がある。